

平成24年 1月30日
国土交通省東北地方整備局
福島河川国道事務所

「第9回 外来魚対応連絡会」を開催します ～ より良い河川環境の保全を目指して ～

国土交通省、福島県、阿武隈川漁業協同組合で構成される「外来魚対応連絡会」の第9回連絡会を下記のとおり開催致します。

ブラックバス（オオクチバス、コクチバス）やブルーギルは、北米原産の外来魚であり、我が国の天然水域における適応力、繁殖力の他、強い魚食性から在来資源への影響が指摘されております。さらには、近年チャネルキャットフィッシュも新たに確認されております。現在、これら外来魚が全国的にその生息域を拡大しており、生息数の増加によって内水面の漁業や生態系への悪影響が懸念されております。

福島河川国道事務所で開催している、河川水辺の国勢調査においても外来魚の進入が確認され、近年その数が増加しているのが実態であり、生物の多様性の保全の観点から河川管理においても適切な管理が求められております。

このような中で、効果的な対策を実施するためには、行政等の取り組みとともに、一般住民等の理解の下、遊漁者など広く関係者の協力が得られるよう、合意形成を図ることが必要不可欠であります。

このため、内水面漁業者、行政等関係者の参画を得て、外来魚問題等について検討する連絡会を設置したものです。

本連絡会は、平成16年10月に第1回連絡会を開催し、今回で9回目の開催となります。

記

1. 開催日時 : 平成24年2月1日（水）14:00～16:00
2. 開催場所 : 福島河川国道事務所 3階大会議室
福島市黒岩字榎平36 TEL 024-546-4331（代表）
3. 議事内容 : 別添-1のとおり
4. 組織構成 : 別添-2のとおり

（発表記者会：福島県政記者クラブ、福島市政記者会）

お問い合わせ

国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所

《 外来魚対応連絡会 代表（事務局） 》

河川副所長 佐々木 秀明（内線 204）

調査第一課長 佐藤 要（内線 351）

〒960-8584 福島市黒岩字榎平36 TEL 024-546-4331（代表）

福島河川国道事務所ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/>

会 議 次 第

司会：東北地方整備局 福島河川国道事務所
調査第一課長

1. 開 会

2. 挨拶 東北地方整備局 福島河川国道事務所 河川副所長

3. 議 事 1) 話題提供「福島県の内水面魚類における放射性物質の状況について」
2) 外来魚等に関する情報提供（主にH23年度の外来魚調査他）
3) 意見交換

4. 閉 会

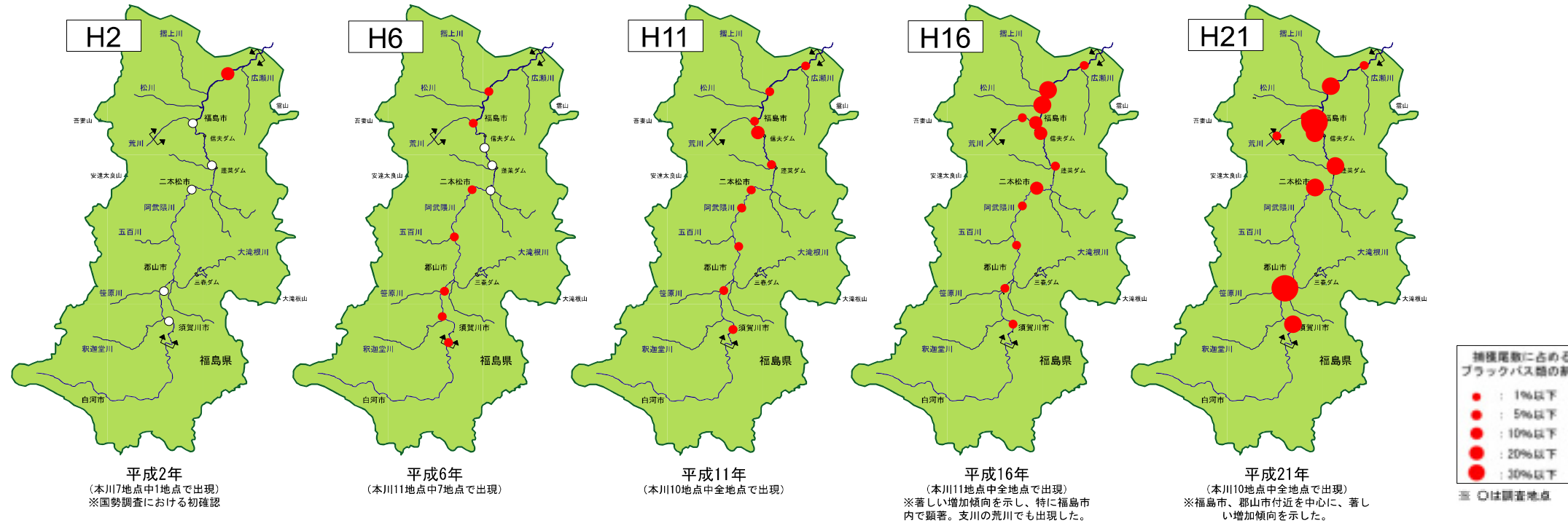
外来魚対応連絡会組織構成

所属機関	担当窓口
東北地方整備局 河川部	河川環境課
東北地方整備局 福島河川国道事務所	調査第一課
東北地方整備局 摺上川ダム管理所	管理係
東北地方整備局 三春ダム管理所	水質係
福島県 生活環境部	自然保護課
福島県 農林水産部	水産課
福島県 農林水産部	農村振興課
福島県 土木部	河川計画課
福島県 内水面水産試験場	調査部
阿武隈川漁業協同組合	

阿武隈川でブラックバス類^注が増加しています!!

国土交通省 福島河川国道事務所が行った「河川水辺の国勢調査」の結果、平成2年の初確認以降、急速に分布域を拡大し、生息数も増加していることがわかりました。

注) ブラックバス類(オオクチバス・コクチバス・ブルーギル)は、特定外来生物被害防止法によって、**特定外来生物**に指定されており、在来生態系の破壊や水産資源への影響が懸念される生物です。



オオクチバス *Micropterus salmoides*
止水域を好む。主に全国の湖沼やダム湖から確認が報告されており、近年は河川でも増加している。

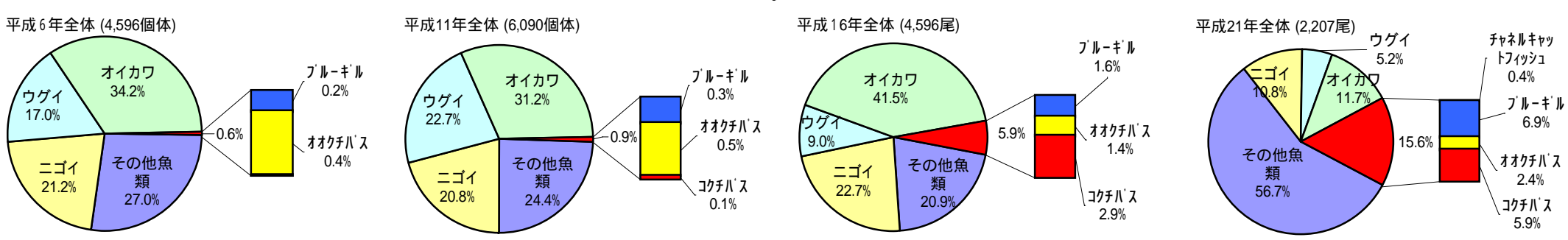


コクチバス *Micropterus dolomieu*
オオクチバスよりも水温の低いところを好み、流れのあるところにも生息する。近年急速に河川への分布を広げており、既に阿賀野川水系、利根川水系でも報告(国勢調査)されている。



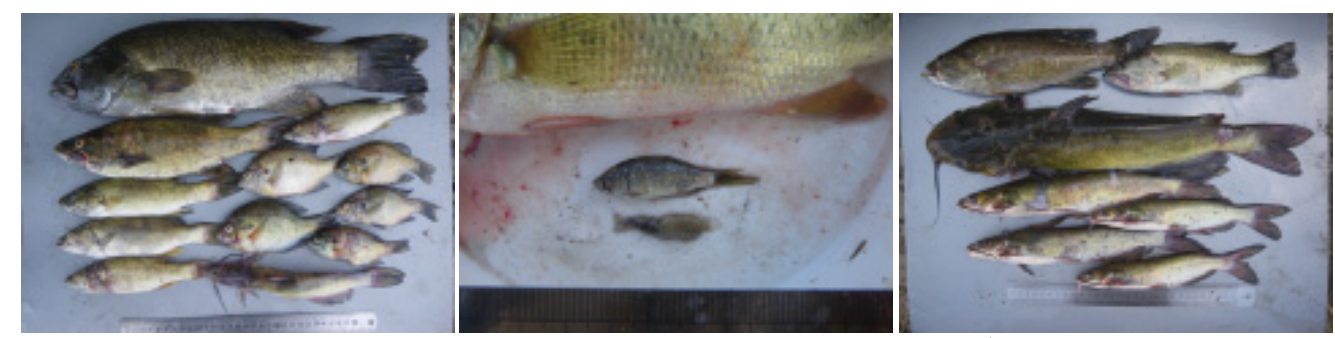
ブルーギル *Lepomis macrochirus*
湖沼や河川の岸際の流れの緩やかな水草帯を好む。主に全国の湖沼やため池などから報告されている。

ブラックバス類は、平成2年に伊達崎付近で始めて確認(国勢調査)されて以降、5年間でほぼ全域に出現し、その後も増加を続けています。特に平成11年から16年にかけては、コクチバスが著しい増加傾向を示しており、在来魚への影響が懸念されます。



福島河川国道事務所では、これらの調査結果を重く受け止め、平成17年度から「外来魚生息実態調査」を実施しています。

- ・その結果、成魚だけでなく、幼稚魚も多く確認され、阿武隈川の各所に定着し、再生産を行っていることが把握されました。
- ・生まれた幼稚魚は初夏から盛夏期にかけて河川内に広く分散し、流れの速いところまで勢力を拡大しています。
- ・特に確認個体数が多かった福島市周辺は、天然アユが遡上・摂餌をする範囲とも重複することから、アユ資源や遊漁への影響も懸念されます。
- ・また平成20年度以降は、同じく特定外来生物であるチャンネルキャットフィッシュが数多く確認され、その分布域は徐々に広がっています。(福島市近郊での確認 H20:1個体 H21:2個体 H22:7個体 H23:9個体)



捕獲されたブラックバス類とチャンネルキャットフィッシュ(大正橋H23.8) コクチバスの消化管から出てきたギンナ(荒川合流部H23.10) コクチバスと一緒に捕獲されたチャンネルキャットフィッシュ(信夫ダム下流H23.10)